鶴岡市社会福祉協議会

おだがいさま

odagaisama

第79号
平成30年
12月1日発行

やりたいことを形にできる仲間がいる！
櫛引青年サークル「くしビギン！」

今回は、「くしビギン！」のメンバーとして、櫛引地域のイベントやボランティア活動等で活躍している、阿部元喜さん（代表／写真右）と阿部和貴さん（写真左）にお話をうかがいました。

櫛引青年サークル「くしビギン！」

魅力ある地域づくりへの参画に賛同する櫛引地区内の青年及び青年団体を会員としたサークルで、会員数14名。（平成30年10月1日現在）平成14年に発足し、サークル名の「begin（ビギン）」には「始める」という意味が込められている。

櫛引地域の子供たちを対象にしたクリスマス映写会やサンタクロースのプレゼント配送、たらのき代スキー場ファン感謝デーのミニゲーム企画・実施等、地域が元気になるような活動を行っている。

<事務局・問い合わせ先>
鶴岡市櫛引生涯学習センター
鶴岡市上山添字文栄90
☎0235－57－5670

■ふたりが「くしビギン！」に入ったきっかけは？

正直なところ、ボランティア活動に関心があったわけではありません。先輩や友人に誘われたのがきっかけで、この人たちと一緒なら何か面白いことができそうという気軽な気持ちで、このサークルに入りました。

■これまでの活動で一番印象深かったことは？

以前、蔵王の樹氷まつりに携わる機会があり、こんな楽しいイベントを地元でも実施できたらと思っていました。

実際に「くしビギン！」メンバーで、たらのきだいスキー場冬まつりのスキー・スノーボードジャンプイベントを企画・実施できたときは本当に嬉しかったですね。

自分一人では、やりたいことを形にするのは難しいですが「くしビギン！」には一緒にできる仲間がいる。それが、このサークルの良さだと感じます。

■サンタクロースのプレゼント配送、夢のある活動ですね

やっていることがボランティア活動だという意識はなく、むしろ自己満足みたいな感じです。自分たちがやりたくてしていることが、子どもたちに喜ばれ、楽しんでもらえるなんてうれしいです。これからも、ずっと続けていきたい活動のひとつです。

想いをカタチに ～おだがいさまのまちづくり～

鶴岡市内の地域住民が主体となり地域を想い、その想いをカタチにした活動をご紹介します。

地域で子どもを育てる サマーボランティア体験

第一学区コミュニティ振興会

学区内の子どもたちに“普段の生活で体験できない経験をしてもらい自主性や思いやりの心を育てたい”“生まれ育った地域を知ってもらいたい”という想いから、平成18年より学区内の小学５年生から中学３年生までを対象にしたボランティア活動です。一人暮らし高齢者や高齢者世帯へ草むしりや窓ふきなどのボランティアや、学区内の保育施設へ子どもたちがボランティアを行っています。参加した子どもたちは「草むしりや窓ふきはしたことがなかったので家でもお手伝いしたい」「人の役に立ったという達成感があった」など様々なことを感じるなど、福祉教育の一環となっています。

草むしりはじめてだけど人の役に立った達成感

地域で支える 福祉協力員活動

大山社会福祉協議会

赤ちゃんから高齢者、障がいがある方もない方も全ての人が住み慣れた大山地区で安心して暮らしていけるようにしたいという想いから、民生委員・児童委員や町内会長と連携を取りながら日常的に声掛けや見守りを行う福祉協力員活動が始まりました。町内会単位では大きすぎてどんな人が住んでいて何に困っているかに気づきにくいため、隣組を活用し見守り体制を整え関係機関で情報共有し、地域での関わり合いにつなげたいと考えました。高齢者のために友愛訪問や除雪の協力等を行っており、子どものためには登下校時の見守りや新生児が生まれた世帯には手土産と育児で困ったときの相談の連絡先を渡しています。様々な活動を通し関係機関との連携・協力体制をつくっています。

相談できるところがあるんですね

地域の安心安全をつなぐ 緊急時安否確認（かぎ預かり）事業

小堅地区自治振興会

平成24年頃地域内で孤独死が相次いだことを受け、地域住民の安全を優先したいという想いから一人暮らし世帯（年齢制限なし）を対象に緊急時の窓割り協定を結びましたが、窓を割って入ることに躊躇する声があり、他県で実施していた事業を参考に平成26年より鍵を預かる事業が始まりました。利用している方からは「緊急時に連絡できるところがあって安心感が増した」との声もありました。今後さらに人口減少していく中で一人暮らし高齢者等をどう支えていくかを考えています。

何かあったときの安心感

あたたかい笑顔をつくる お茶のみサロン「はっぴー広場」

羽黒地区しゃべってほっとの会

現代の高齢者は家族の中でも孤立していることもあるため、そのような状況にある高齢者が気軽に集まれる場所があればという想いから、誰でも参加でき出入り自由な場所として「はっぴー広場」が始まりました。毎月１回開かれますが、参加者はこの場所がなくてはならない居場所になっています。参加者の高齢化や移動方法の課題はありますが、元気に参加できることが生きがいになっています。

みんなでつくるいこいの場

地域を盛り上げるあつみ温泉 まちづくりチームYUKAI

温海地区

人口減少や空き家が目立つようになり、あつみ温泉に賑わいを取り戻したいという想いを抱いた地元の20代から50代の仲間たちでまちづくりチームＹＵＫＡＩは結成され、様々な活動を行っています。あつみ温泉のバラ園では車いすの方でも満開のバラ園に入れるようにと1日限定で境内の階段にスロープを設置し、移動の手伝いを行います。今後は活動をまとめる後継者を育てることや空き店舗等を活用したまちづくりが必要と考えています。

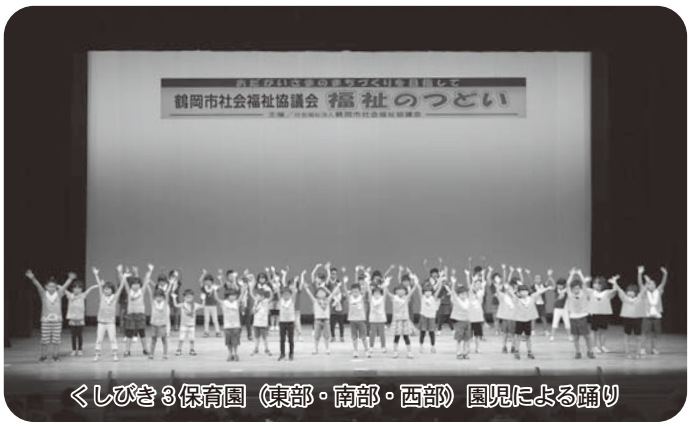
車椅子に乗ってバラ園を見れるなんてうれしい

鶴岡市社会福祉協議会では今後も「おだがいさまのまちづくり」のために、こうした住民が主体となって取り組む地域福祉活動のお手伝いをさせていただきたいと思っています。

？福祉クイズ

質問：手話通訳者は聴覚障害のある方と会話をするときに言葉を手話で伝えてくれる仕事です。その他にも聴覚障害のある方へ言葉を伝える仕事があります。それはどれでしょうか？次のページの左側から選んでね。

鶴岡市社会福祉協議会 福祉のつどい



くしびき３保育園（東部・南部・西部）園児による踊り

山木会長あいさつ

NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター理事長 池田昌弘氏による講演

鶴岡市社会福祉協議会の福祉のつどいを10月10日、鶴岡市中央公民館で開催し、市民や福祉関係者約350人が集いました。市社協の基本理念である「おだがいさまのまちづくり」を進めるため、市社協事業や地域の福祉活動に理解を深めてもらう機会として毎年開催しています。オープニングでは、くしびきの３つの保育園（東部・南部・西部）園児によるステージ発表や福祉活動に尽力した３個人10団体に表彰状や感謝状を贈りました。地域福祉活動の紹介に続いてNPO法人全国コミュニティライフサポートセンターの池田昌弘理事長が『地域の宝物』みつけた！～だれもがおだがいさまのまちづくりを目指して～の演題で、地域社会の相互扶助、地域住民協働のあり方について講演しました。「介護保険制度以降、介護サービスが充実する一方で地域での人と人との繋がりが希薄化している、隣近所の住民同士が頻繁に顔を合わせ声を掛け合うことでお互いが気に掛け合い、見守りや支え合いに繋がる。」と説き、各地で行われている実践活動を紹介、地域住民活動の重要性を話していただきました。また、会場では障害福祉サービス事業所の展示販売や活動紹介も行われました。受賞者の皆様は下記のとおりです。

◆表彰状

後藤 豊喜（ごとう とよき）氏（鶴岡地域）
平成八年よりボランティア活動を始め、現在も病院や福祉施設、災害支援等の活動を続けている。孤立している方の相談や援助活動を行い福祉向上のために尽力された。

榎本 澄子（えのもと すみこ）氏（鶴岡地域）
平成十四年四月から平成三十年四月まで第五学区社協理事。その間、第五学区社協会長・副会長を歴任。地域福祉活動計画の策定や福祉協力員の推進に取り組み地域福祉事業の推進に尽力された。

稲村（いなむら） 喜美（きみ）氏（鶴岡地域）
平成七年湯野浜地区社協発足時から現在まで湯野浜地区社協理事。湯野浜婦人会会長を歴任、同顧問、自治会理事を現任。地域高齢者の社会参加を積極的に促すなど、福祉向上のために尽力された。

第四学区社会福祉協議会（鶴岡地域）
平成八年第四学区社協設立。コミュニティワーカーの配置、福祉協力員の配置など先駆的な取り組みを行うなど、地域福祉活動の充実に貢献している。

田川地区社会福祉協議会（鶴岡地域）
平成八年田川地区社協設立。平成二十七年「田川地区おだがいさま見守りネットワーク」を実践するなど、地域福祉活動の充実に貢献している。

小堅地区社会福祉協議会（鶴岡地域）
平成四年小堅地区社協設立。平成二十七年「緊急時安否確認（かぎ預かり）事業」の取り組みを実践しているなど、地域福祉充実に貢献している。

しらうめ会（鶴岡地域）
平成四年結成。社会福祉法人一幸会の特別養護老人ホーム池幸園並びにデイサービスセンター健楽園で利用者に寄り添った活動を行っている。交流を二十六年間にわたり実施し、社会福祉の増進に寄与している。

大山茶道クラブ（鶴岡地域）
平成十五年から毎月一回、鶴岡市社協の施設デイサービスセンターたかだての利用者へお茶をたて振る舞うボランティア活動を行うなど社会福祉の増進に寄与している。

八幡神社獅子舞保存会（羽黒地域）
平成十四年設立。神社で獅子舞奉納を行う傍ら、町内の老人福祉施設の訪問や地区敬老会での活動に取り組んでいる。また、子どもたちへ地域の伝統芸能の継承活動を行うなど社会福祉の増進に寄与している。

青年サークル くしビギン！（櫛引地域）
平成十四年から、櫛引地域の二十代、三十代の若者が魅力ある地域づくりに参画できるよう若者の人材育成を目的とした活動に取り組んでいる。

高校生ボランティアサークル かだんこの会（朝日地域）
昭和五十三年より旧朝日村の高校生が活動を開始して以降、朝日地域に在住の高校生が、地域のイベントや福祉を学びながら、多岐にわたり地域の福祉向上に寄与している。

◆感謝状

株式会社アークベル（鶴岡地域）
特別指定寄付として市内の福祉施設五カ所に車椅子を贈呈され、社会福祉の増進に寄与している。

三山大愛教会（羽黒地域）
長年にわたり一般社会福祉事業への多大なるご寄付として頂戴しており、地域福祉事業を推進する貴重な財源として活用させていただいている。

❓福祉クイズ

①視能訓練士 ②言語聴覚士 ③要約筆記者 ④介護支援専門員

（答えは次ページの右側）

トピックス

みんなの思いを胸に挑戦することの大切さを感じながら

～全国アビリンピック報告～

アビリンピックは、障がいのある方々が日頃培った技能を互いに競い合うことを通じて、職業能力の向上を図るとともに、企業や社会の障害者雇用に対する理解を深め、その雇用を促進することを目的として開催しています。「アビリンピック」は、「アビリティ：能力」と「オリンピック」を合わせたものです。

全国アビリンピック（38回全国障害者技能競技大会）が11月2日から5日までの4日間、沖縄県那覇市の奥武山公園内の会場で開催され、山形県からは10名が県選手として出場しました。その内鶴岡市からは、吉住しのぶさん（種目：喫茶サービス競技、所属：就労継続支援B型事業所きらり、写真下段左）、叶野雅代さん（種目：洋裁競技、所属：鶴岡市社会福祉協議会、写真下段右）、佐藤真由実さん（種目：表計算競技、所属：鶴岡市社会福祉協議会、写真下段中）の3名がアビリン選手として出場しました。

今回の全国大会は、22種目の競技に388名の選手がエントリーし山形県選手の競技結果は、入賞者3名（銀賞1名、努力賞2名）の成績を収めました。
厳しい審査基準の中での入賞は、日頃の努力の成果を発揮され、本当に価値のある素晴らしい事と思います。おめでとうございます。

残念ながら入賞を逃してしまった選手の皆さんも、アビリンピックでの経験はきっと自分自身の可能性を引き出してくれる絶好の機会だったに違いありません。これからもアビリンピックで経験できたことを誇りに頑張ってください。

こうした大会の趣旨を各企業や社会一般の人々が賛同し、障がい者への理解の裾野が広がっていくことを願っています。

参加者からの声として、大会終了後、選手並びにサポートした皆さんよりお話をいただきました。

洋裁競技に出場した叶野さんは、「競技時間が6時間で、終了10分前にようやく作品を完成することが出来ました。時間との戦いの中で、オーバーブラウスの仕上がり具合が一番気を付けたところです。努力賞ということでホッとしています。」

喫茶サービス競技に出場した吉住さんは、「今回が2回目の出場ということで、前回より全体の流れがわかる分大変緊張しました。競技では、感謝の心を大切に、そして笑顔で楽しむことが出来ました。」

表計算競技に出場した佐藤さんは、「自分の思い描いたような結果には及ばず応援してくれた皆さんには申し訳ない思いがあります。次回リベンジを図りたいと思います。皆さん応援ありがとうございました。」

サポートした方々からは、山形県選手団の団結力のすごさには驚きました。日にちを重ねるにつけ、みんな仲良くなり、自分以外の競技にも精一杯応援する姿にも感動を受けました。自分も勇気づけられたような気持になりました。それぞれの競技に挑む選手の皆さんへのサポートを通じて、アビリンピックの持つ素晴らしさに感動しました。選手の皆さんありがとう！

ご寄付ありがとうございました

みなさまのご厚志に心より御礼申し上げます。
（平成30年9月8日～平成30年11月8日までのご寄付を掲載しています）

★一般社会福祉事業へ

◎鶴岡福祉センターへ
- 八沢会 様　50,000円
- 庄内なつメロ会 様　20,000円
- 匿名　50,000円
- 山形県社会福祉事業団 庄内地域施設職員御一同 様　食料品67個

◎藤島福祉センターへ
- 曹洞宗山形県第三宗務所　第九教区 様　40,000円
- 曹洞宗山形県第三宗務所 様　50,000円

◎温海福祉センターへ
- 佐藤　一喜 様　100,000円

★老人デイサービスセンターふれあいへ
- 鶴岡市新海町福祉部 様　5,000円
- 丸正衣料 様　衣類・肌着100枚

★高齢者福祉センターおおやまへ
- 匿名　300,000円

★はちもりへ
- 齋藤　久雄 様　10,000円

★櫛引すこやかセンターへ
- 櫛引地域婦人会 様　タオル116枚

★くしびき保育園へ
- 犬塚　知子 様　ベビーラック 1台、ぬいぐるみ 1個、絵本9冊

★温海デイサービスセンター愛寿園へ
- 粕谷　幸一 様　10,000円
- 齋藤　久雄 様　15,000円
- 石塚　寛 様　50,000円

★特別指定寄付（鶴岡手をつなぐ親の会様へ）
- 瀧澤眼科医院 様　5,000円
- 上野整形外科医院 様　5,000円
- 石橋内科胃腸科医院 様　5,000円

おだがいさま
第79号
平成30年12月1日発行
発行部数　48,800部

編集・発行
社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
鶴岡市泉町5番30号（にこ❤ふる2階）
TEL 0235-24-0053　FAX 0235-23-9110
ホームページ http://www.shk01.jp/

鶴岡福祉センター　TEL 24-0053
藤島福祉センター　TEL 64-3100
羽黒福祉センター　TEL 62-4534
櫛引福祉センター　TEL 57-5300
朝日福祉センター　TEL 53-2795
温海福祉センター　TEL 43-2114

この広報紙は、赤い羽根共同募金の配分を受けて発行しています。

福祉クイズ

こたえ　③

中途失聴・難聴者の集会や会議の場などで使われるコミュニケーション保障手段の1つに要約筆記があります。要約筆記には、手書き要約筆記とパソコン要約筆記の2つがあります。